

良いもの作り社会貢献

誠実さが顧客の信用築く

佐藤渡辺が20日に創業100周年を迎える。1923年に渡辺組が創業し、51年には成和土木（72年佐藤道路に改名）が起業。舗装事業や環境景観事業を主軸に展開しながら、2005年に経営統合した。創業の経営信条を引き継ぎ、顧客ニーズに誠実に応えることで社会に貢献し、会社発展のため利益確保に努める。次の100年を見据え、老朽化したインフラのメンテナンス事業やPPP/PFI事業に参画するなど成長戦略を描く。



創業100周年の佐藤渡辺 石井 直孝社長

創業100周年の佐藤渡辺

Interview

——創業100周年を迎える。
「『誠実・創造・最高の技術』を社是に、何事にも誠実に対応し、良いものを作ることでお客さまに満足していただくことが創業以来のモットーだ。結果として信用を築くことができ、100年につながったと思う。われわれの仕事は社会の役に立つものだという意識を常に持っている」

「バブル崩壊など経営環境が

若い世代の積極的なチャレンジを支援



100周年記念ロゴマーク

敵しい時期もあったが、合併によって佐藤道路の透水性コンクリート舗装をはじめとする環境景観舗装技術と、渡辺組のウオータージェット技術（超高压水で劣化したコンクリートをはつり取る）といった互いの強みを組み合わせ、事業の主軸に成長させてきた。非常に意義のある合併だった」

——現在直面する課題への対応策は。
「DX、施工の無人化、GX（グリーン・トランスフォーメーション）の三つだ。DXはICTを施工から出来形管理まで浸透させ、生産性向上につなげる。施工の無人化では、大手ゼネコンが大型土木工事を遠隔操作により無人のトラックや重機で施工しているように、舗装工事も遠隔操作の技術によって無人で施工できるようにするだろう。タクシーやバスなど車両の無人化も進み、それに伴って道路の役割が変わってくるだろう。路面からの給電など、さまざまな機能を道路に付与することが予想される。広く情報収集しながら対応を検討していく」

「GXについては、脱炭素事業を先駆的に展開する企業などで構成するGXリーグに参画し取り組み宣言を行い、50年に向けた具体的な行動計画を示した。製品部門の二酸化炭素（CO₂）排出量を削減するため、工場への設備投資も進める」

「柔軟に変化するのも大切だ。従来の考え方にとらわれず、新たな発想で業務改善に挑んでいきたい。今年の業務改善発表会では若手社員が業務の大幅な効率化につながるプログラムを、プログラミング言語のパソコンで作成した事例があった。若い社員が新しいことに積極的にチャレンジする環境をつくり、支援していくことが重要だ」

——社会や事業環境が大きく変化する中、守り続けるもの、変えていくものとは。
「何事にも誠実に対応し、お客さまから信頼される社員、会社になる。創業から受け継いできたこの精神は守っていく。われわれの事業展望は、」

「6月に成立、改正した国土強靱化基本法で、5か年加速化

「当社には入社1年目の社員でも、自分の考えや意見を上司や会社に言える社風がある。若い世代が伸び伸びと力を発揮できる環境を整備し、支援していく体制をつくる。一通り仕事を覚えたら、新たなことに果敢にチャレンジしてほしい」。

1925年、明治神宮表参道の舗装工事で基礎コンクリート施工（佐藤渡辺提供）



「入社4年目までは毎年本社で研修を行い、同期のつながりを太くし離職防止につなげている。工事責任者に対しては、交渉力を鍛えるためのオンライン会議を開催している。現場での成功例や失敗例を発表し、情報共有や意見交換を促す」

「国内の人口減少を見据え、外国人材の採用も進める。フィリピンの訓練学校の卒業生を、特定技能外国人として来年10月をめどに受け入れる予定だ。継続的に受け入れ、当社で活躍してくれることを期待している」

「次代を担う若手社員へメッセージを。」

